

共助による支え合いで住み続けたい品川区を



区民や企業、団体等が 協働の精神でまちづくり

地域による見守り「003 (ハチサン)運動」発祥の地

朝の爽やかな空気に包まれ、品川区を散歩していた二男くんは、子どもの見守りで道端に立っている方を見掛けました。

これは、小学校の登下校の時刻である午前8時と午後3時、大人たちがなるべく外の用事を行いながら子どもを見守る「03 (ハチサン)運動」です。この運動は、品川区が発祥で、その後、全国に広がりました。二男くんは「品川区は、人口減少や少子高齢化の中で、地域の支え合いをどうやって強めているのか調べたい」と思い、品川区役所に向かいました。

若年者の転入

二男くんは品川区役所の区政資料コーナーで『品川区人口ビジョン』と『品川区総合戦略』を手に取りました。

品川区では、高度経済成長が始まる前後にあたる昭和20年代後半から昭和30年代前半に人口が急増し、1964 (昭和39)年には戦後のピークとなる41万5728人を記録。その後、人口は減少に転じ、1997 (平成9)年には31万5696人まで減少しました。しかし、それ以降は再び増加傾向に転じ、2018 (平成30)年1月には38万7622人まで増えています。出生数は近年、増加傾向が続いて

います。母親の年齢階級別では、30〜34歳での出産が多く、出生数全体の約4割を占めています。転入は男女ともに20〜30歳代で多く、転入総数のうち69・9%がこれらの年齢層により占められています。

二男くんは「若い世代がたくさん転入しているのが、品川区の強みだね」と感心しました。

品川区に愛着を持ち、 住み続ける

『人口ビジョン』によると、将来人口推計は、当初は近年の社会移動の傾向を維持し、その後、社会移動は急速に減少する「中位推計」、中位推計よりも社会移動が微減傾向を示す「低位推計」、中位推計ほどに

は社会移動が減少せず、増加基調が当面続く「高位推計」を設定しています。

その結果、品川区の日本人の総人口は当面は増加傾向を維持しますが、高位推計で2033 (平成45)年、中位推計および低位推計で2027 (平成39)年にピークを迎え、以降は減少に転じることが分かりました。また、2060 (平成72)年には高位推計では35万6620人、中位推計では33万2989人、低位推計では32万8131人となっています。そのため、将来展望では、若年者の転入傾向を維持するとともに、これらの世代が品川区で子どもを生み育て、区に定着してもらえるよう定住を促進することや、品川区で生ま



れ育った人、転入してきた人が他の自治体に転出することなく、品川区に愛着をもち、住み続けたいと思える環境を整備することなどをうたっています。

二三男くんは「品川区に転入してくる若い世代が、ずっと品川区に住み続けてくれるような施策が必要なんだな」と思いました。

品川区の4つの基本目標

二三男くんは続けて、『総合戦略』を読みました。

総合戦略では、策定に当たったの基本的な視点として、①子どもを子育てやすく、住み続けたい環境を整備し、安定的な人口構造を確保する、②将来に向けて持続的に発展するため、区民や多様な人びとが活動・交流できる地域社会としての魅力を高める、の2点を示しています。その上で、四つの基本目標を掲げています。

一つ目は、「安心して子どもを生まれ、楽しく子育てができるまちをつくる」。

子育てへの負担感や不安感、孤立感を軽減し、誰もが安心して子ども



町会・自治会など地域の支え合いが強いのが品川区の良さ



を生み、楽しく子育てができる環境をつくること。また、品川区の特色ある教育活動を受けさせたいと感じられるような、確かな学力と豊かな人間性を育む学校教育の充実を図るとあります。

二つ目は、「地域を支える産業の活力を高め、魅力ある雇用の場を創出する」。

新たなまちづくりと合わせ、地域の活力の維持と雇用創出を図るた

め、区内産業の活性化を支援。また、今後の雇用情勢や景気動向を踏まえつつ、人口構造の変化に対応するため、多様な世代に対する就業支援を行うとあります。

三つ目は、「国際化への対応をさらに進めつつ、多様な地域との交流・連携を推進し、ともに発展する」。

品川区は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ではビーチバレーボールやホッケーの

会場となります。地域の国際化への対応や都市型観光の推進、交流の場にもふさわしいまちづくりなど、都市としての魅力向上を図ることにより、世界に開かれた交流を促進するとあります。

そして最後は、「生涯にわたり住み続けたい安心と活力のあるまちをつくる」。

多様な世代の定住性の向上を図るため、安全で安心して生活ができ、

全国の自治体・団体・企業等をつなぐ 全国シティプロモーションサミットを開催

品川区は2017(平成29)年10月26日・27日の2日間、「全国シティプロモーションサミット2017 in Shinagawa」を開催しました。都内では初の開催で、関連イベントを含めて、全国から約2,500人が来場しました。

全国シティプロモーションサミットは、シティプロモーションに取り組む全国の自治体職員が一堂に会し、まちの特色を活かした創意工夫や経験を共有し、抱えている課題の解決に向けて意見交換を行うものです。

担当者は「都市型観光など都心が抱える課題や取り組みを共有することができた他、品川区の魅力も全国にアピールできました」と話しています。

それぞれの自治体職員が自分の住むまちの魅力をどう打ち出すのか、立場を超えて話し合う機会が持てたことは、貴重な経験になったのではないのでしょうか。



シティプロモーションサミット

誰もがいつまでも元気で、いきいきと暮らせる環境を整備するとともに、区民や様々な団体との協働を推進し、共助による支え合いのしくみを構築するなど、生涯にわたり住み続けたい活力のあるまちをつくる必要があります。

地域の担い手となる町会 ・自治会を支援

二三男くんは、基本目標の最後にある「生涯にわたり住み続けたい安心と活力あるまちをつくる」に注目しました。

ここでは、「区民や様々な団体が主体的に活動できる、活力のあるまちをつくる」としています。地域が抱える様々な課題の解決を図るため、地域コミュニティの重要な担い手である町会・自治会を中心として、企業や大学、NPOなどの自主活動団体との協働を進めるとともに、そのための活動を支援していく考えです。

なかでも二三男くんが興味を持ったのは、重点施策である「町会・自治会の活動支援」です。

品川区には、6月1日現在、約



200の町会・自治会があります。

町会・自治会は、地域住民が生活を営む中で生まれた地域を代表する団体で、地域コミュニティの中心的な役割を担っています。しかし、町会・自治会の法的な位置付けなどは明確ではありませんでした。

そこで、品川区は、町会・自治会の位置付けを明確にし、町会・自治会の活動を後押しするために、23区初となる「品川区町会および自治会の活動活性化の推進に関する条例」を制定。条例では良好な地域コミュニティを維持・形成し、共助の精神に支えられた地域社会の実現を目指し、町会・自治会の位置付けや役割を明らかにするとともに、区が取り組むべき支援、区民・事業者が協力する事柄を定めています。

また、品川区は、町会・自治会への加入促進のため、その役割をパンフレットやホームページなどで広く紹介するとともに、活動の活性化や拠点機能の充実を支援しています。

地域での見守りの対象は、子どもだけではありません。高齢者が安心して生活していくための見守り活動

など、町会・自治会や事業者との連携をさらに深めた地域での見守り体制の仕組みづくりも進めています。

区内全13地域センターに設置されている「支え愛・ほっとステーション」では、社会福祉協議会や民生委員と連携し、独り暮らしの高齢者などに対する身近な場所での相談や日常生活上の困りごとなどにきめ細かに対応しています。

多世代交流施設で子育て応援

品川区が子育て支援の大きな柱としているのが、妊娠・出産から育児まで切れ目のない支援を行う「しながわネウボラネットワーク」です。保健センターには「妊産婦ネウボラ相談員」、児童センターには「子育てネウボラ相談員」が子育ての相談などに応じ、希望者にはサポートプランも作成しています。

また、産後の家事・育児支援のヘルパー等の利用助成や、日帰りの産後ケア事業、区指定医療機関での宿泊型産後ケア事業などのサービスも提供しています。

「ゆうゆうプラザ」では、子育て

応援プログラムも行われています。

具体的には、子育て交流サロンや、ママのリフレッシュタイムなどの取り組みがあります。「ゆうゆうプラザ」は、高齢者だけでなく多くの世代が利用する施設です。とかく孤独になりがちな子育て中の親子と、地域の高齢者が交流できる場合は、地域の支え合いを大切にする品川区ならではの施設です。

地域の支え合いで発展する品川区

品川区は地域の絆が強い街です。町会・自治会を中心に区民や企業様々な団体が協働して、子育て支援や地域の見守りなど、課題解決に積極的に取り組んでいます。

二三男くんは「子育て支援を充実するだけではなくて、町会・自治会など、地域が積極的に活動できるような仕組みや環境をつくっていることが、多くの区民の『住み続けたい』という思いにつながっているのかもしれないね」と考えました。

『総合戦略』を一通り読み終えた二三男くんは、大井町駅まで歩きました。駅前に来てきた二三男くん

妊産婦ネウボラ相談員が妊娠・出産から育児まで切れ目なく相談に応じている。



は、大井町駅の変貌ぶりに驚きました。

「僕が昔見た大井町駅とは大違いだ。街は発展しても、地域の支え合いは強い。少子高齢化問題も乗り越えてほしいね」

二三男くんは、ワクワクしながら改札口へと向かいました。